

(案)

令和6年度 全国学力・学習状況調査 海老名市の結果



令和6年8月23日（金）
「海老名市ひびきあう教育研究発表大会」

- はじめに
- 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の分析による海老名市の児童生徒の状況について（ダイジェスト版）
- 海老名市の結果概要
- 学力調査結果
- 児童生徒質問紙調査結果
- ご家庭で協力していただきたいこと
- 学力向上のための「8つの教育施策」について

令和6年12月
海老名市教育委員会

は じ め に

海老名市教育委員会では、平成26年度より全国学力・学習状況調査における市の結果と海老名市立小中学校全19校（小学校13校、中学校6校）の結果を公表しています。

つきましては、次のとおり令和6年度の調査の結果を公表します。

公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

公表をすることによって、保護者や市民の皆様に、市や学校のこどもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

◆公表の目的

- ひとりひとりの児童・生徒が、自分自身を改善する。
- 学校が指導の改善に生かす。
- 海老名市教育委員会が教育施策の改善に生かす。
- 保護者・市民に公表し、学習習慣や生活習慣の改善に向けて協力を得る。

◆公表の内容

<市全体の結果>

- 平均正答率や分布、質問紙の結果を、全国・県との比較で、数値や文章で表記する。
- 「ダイジェスト版」「結果概要」を記載する。
- 分析とともに今後の具体的な取組を記載する。
- 地域や家庭と協力して取り組むことを記載する。

<各校の結果>

- 全校が同じ構成で公表するが、様式・内容については学校裁量とする。
- 平均正答率は記載せず、文章で表記する。
- 分析とともに「今後の具体的な指導改善のポイント」を記載する。
- 家庭との協力について記載する。

◆公表の方法

<市全体の結果>

- 市のHPにて公表する。

<各校の結果>

- 小学校6年生、中学校3年生の家庭にはメールで配信する。
- 市のHPにて公表する。

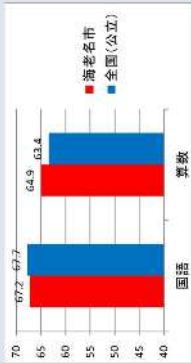
令和6年12月 海老名市教育委員会

1 学力調査結果の概要

小学校 国語は全国と比べてやや下回っています 算数は上回っています

	国語	算数
海老名市	67.2	64.9
全国(公立)	67.7	63.4

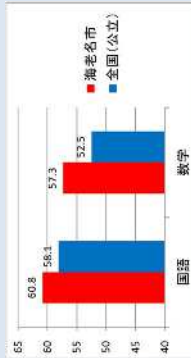
平均正答率(%)



中学校 全教科とも全国と比べて上回っています

	国語	数学
海老名市	60.8	57.3
全国(公立)	58.1	52.5

平均正答率(%)

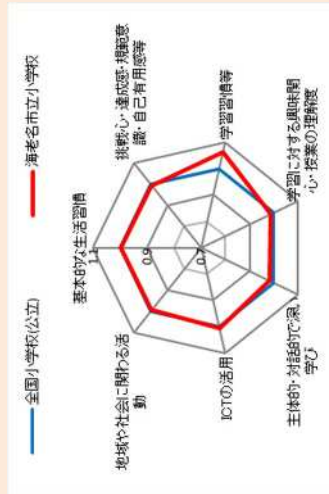


2 児童生徒質問紙調査結果の概要

小学校

小中学校とも、学習習慣が身についています

中学校



児童・生徒質問紙より (全国平均を「1」としたときの比較)

- ◇授業以外で勉強する習慣が身についています。
- ◇ICTの活用が進んできました。
- ◆主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善をさらに進めてまいります。
- ◇授業以外で勉強する習慣が身についています。
- ◇ICTの活用が進んできました。
- ◆基本的な生活習慣については課題があります。
- ◆地域や社会への関心を高める必要があります。

3 ご家庭で協力していただきたいこと

☆規則正しい生活習慣を身につけましょう

生活習慣の基本となる「早寝・早起き・朝ご飯」を実践し、よい生活リズムを心がけましょう。

☆自分の良さに気が付く声掛けを

こどもの個性を尊重し、出来ないことではなく、出来ることを評価し、物事に主体的に取り組む姿勢を育みましょう。

☆計画的な家庭学習に取り組みましょう

学習習慣は身につけていますが、さらに、取組む時間や分量、内容など、自分で計画を立て、継続的な家庭学習に取り組みましょう。

☆地域の方々と顔が見える「つながり」をつくっていきましょう。

海老名市ではコミュニティ・スクールを導入し、「地域で育てるこどもたち」を目指しています。地域に関心を持ち、地域の行事等に家族で参加しましょう。

4 海老名市の教育施策(学力向上のために)

ひとりひとりの真の学びを支え、
誰ひとり取り残さない教育の実践をめざします

- 1 授業改善に取り組んでいます
- 2 ICT活用教育を推進しています
- 3 ALT(外国人指導助手)を配置しています
- 4 教員の研修・研究を推進しています
- 5 少人数学級、少人数指導のための教員を配置しています
- 6 補助指導員・学習支援ボランティアを配置しています
- 7 「学校応援団」による学校支援を進めています
- 8 コミュニティ・スクール、小中一貫教育を推進しています

教科に関する調査の結果

※平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

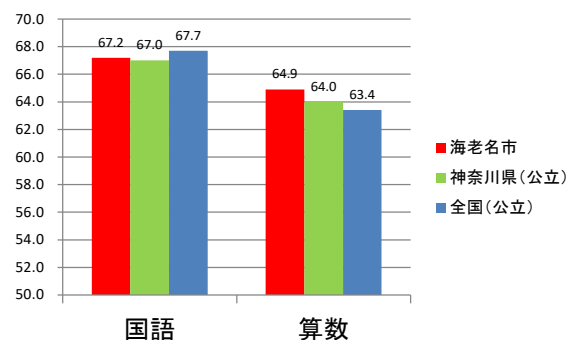
小学校

国語は、全国平均をやや下回っています
算数は、上回っています

平均正答率(%)

	国語	算数
海老名市	67.2	64.9
神奈川県(公立)	67.0	64.0
全国(公立)	67.7	63.4

平均正答率のグラフ(%)



- ★国語は昨年度同様、全国と比べて、やや下回っています。
- ★算数は昨年度に引き続き、全国と比べて上回っています。



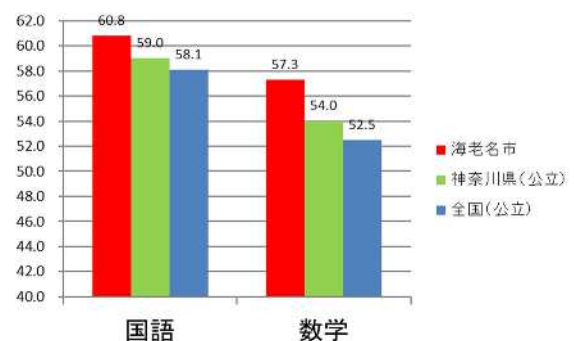
中学校

各教科とも、全国と比べて上回っています

平均正答率(%)

	国語	数学
海老名市	60.8	57.3
神奈川県(公立)	59.0	54.0
全国(公立)	58.1	52.5

平均正答率のグラフ(%)

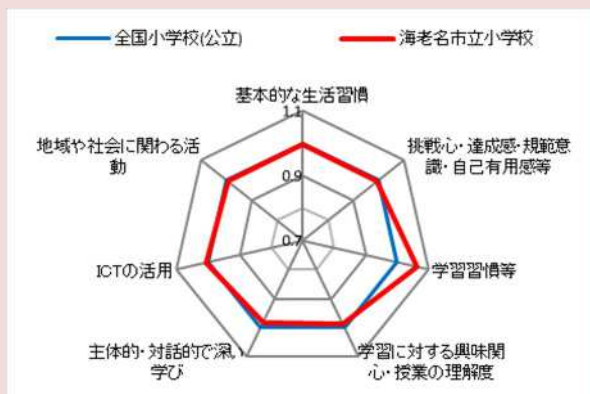


☆国語、数学ともに、全国平均を大きく上回っています。

児童生徒に対する質問紙調査の結果

小学校

学習習慣が身についています



◇学校の授業以外でも学習する習慣が身についています。

◇ICTの活用が進んできました。さらに学習において効果的に活用してまいります。

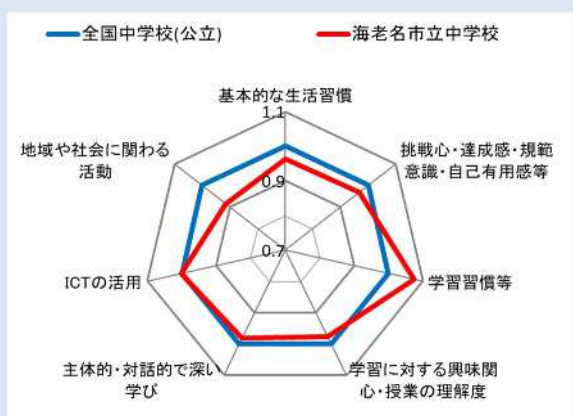
◆主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善をさらに進めてまいります。

児童質問紙より
(全国平均を「1」としたときの比較)



中学校

学習習慣が身についています



◇学校の授業以外でも学習する習慣が身についています。

◇ICTの学習活用が進んでいます。

◆生活習慣の改善のために指導していく必要があります。

◆地域や社会の関心を高められるよう、働きかける必要があります。

生徒質問紙より
(全国平均を「1」としたときの比較)



学力調査結果

小学校国語

小学校算数

中学校国語

中学校数学



小学校 国語

令和6年度
全国学力・学習状況調査

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、オンラインで交流する場面における話し方の工夫として適切なものを選択する問題、学校のよさを紹介する文章の空欄に入る内容を取材メモを基にして書く問題、物語を読んで心に残ったところとその理由を書く問題などが出題されています。

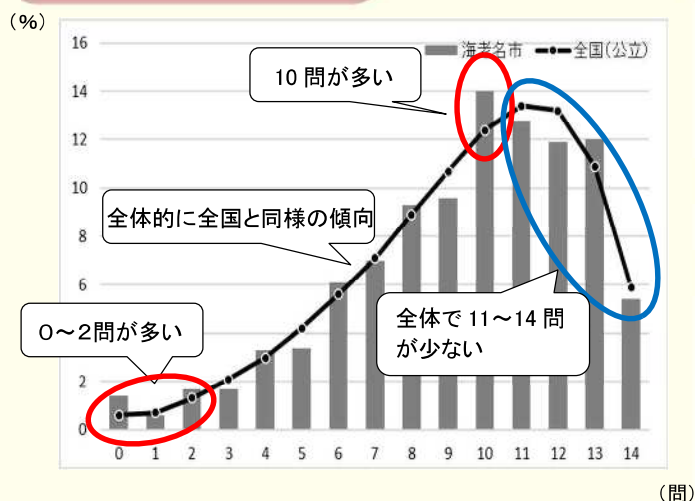
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	67.2%	67.0%	67.7%	-0.5
平均正答数	9.4 問 /14 問	9.4 問/14 問	9.5 問 /14 問	-0.1

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率

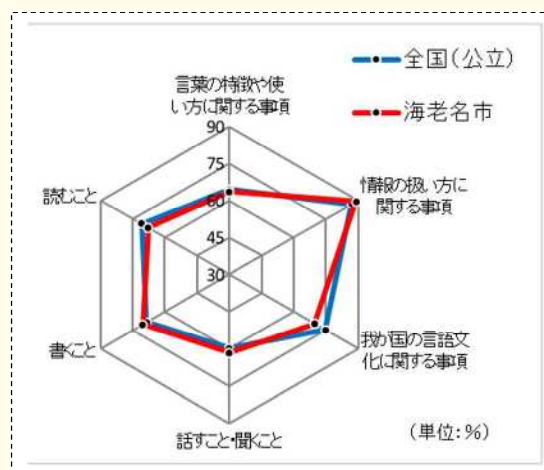
正答数分布グラフ

（横軸：正答数，縦軸：割合）



- * 正答率 50%以下(正答数 0～7 問)の児童の割合は、全国と比較してやや上回っています。
- * 正答率 80%以上(12～14 問)の児童の割合は、全国と比較してやや下回っています。

学習指導要領の領域等の平均正答率



- * 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、全国と比較して上回っています。
- * 「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」の領域においては、全国と比較して下回っています。

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 問題 数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国 (公立)	全国との 比較	海老名市	全国 (公立)	全国との 比較
学習 指導 要領 の領 域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	4問	63.5	64.4	-0.9	7.1	6.0	1.1
	情報の扱い方にに関する事項	1問	89.0	86.9	2.1	1.6	3.3	-1.7
	我が国の言語文化に関する事項	1問	69.5	74.6	-5.1	14.8	2.1	12.7
	話すこと・聞くこと	3問	61.6	59.8	1.8	1.6	4.8	-3.2
	書くこと	2問	70.2	68.4	1.8	2.4	6.0	-3.6
問題 形式	読むこと	3問	67.7	70.7	-3.0	9.0	6.0	3.0
	選択式	10問	70.1	69.9	0.2	4.1	2.0	2.1
	短答式	2問	57.5	59.7	-2.2	11.1	10.6	0.5
	記述式	2問	62.4	64.6	-2.2	9.2	8.8	0.4

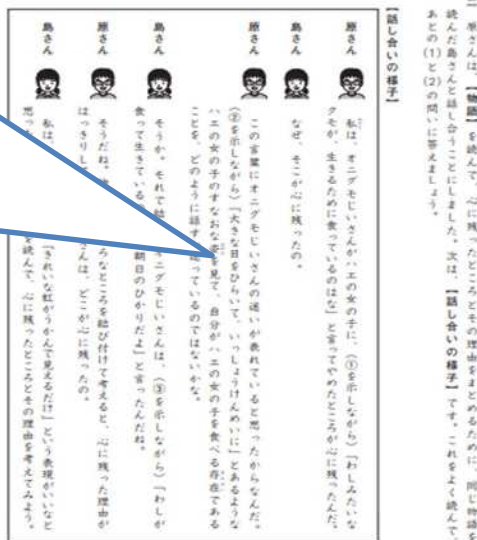
海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数を見ると、全国とほとんど差がなく、差がおよそ-0.5ポイントです。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、14問中7問でした。
- 無解答率が全国平均よりも高いのは14問中12問で、全設問をとおして無解答率の高さが課題です。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の無解答率は10%を超えています。全国的にも課題は同じで、漢字を正しく書くことについては、継続した指導が必要です。

全国の正答率と差が見られた問題の例

小学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

(前略) この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。
(中略) 自分がハエの女の子を食べる存在であることを、どのように話すか……



3二(2) 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。

趣旨 人物像を具体的に想像することができかどうかを見る。

正答 登場人物の気持ちや考え方

◇この問題の正答率

海老名市	69.1%
全国(公立)	72.5%
(全国との比較)	-3.4

考 察

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方については、概ね理解しています。
- ある程度の分量やまとまりのある文章を、最後まで読み切り、内容の大体を捉えたりすることや表現の効果を読み取ったりすることに課題があります。

指導の改善にむけて

◆漢字を文の中で正しく使うことができるように

- パターン練習(スキルや漢字ノート)だけではなく、文や文章の中で正しく漢字を使う習慣を身につけられるよう、意図的に活用する場面を設けるようにします。

◆「表現の効果」や「物語のよさ」を見付けられるように

- ある程度の分量やまとまりのある文章を読み、物語の全体像や人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導を充実させます。
- 児童の読書の状況を見取り、児童が交流しながら「物語のよさ」を見付けることができるよう、読書活動を充実させます。

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、問題場面の数量の関係を捉えて持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ問題、円柱の展開図について側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題、家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを求める問題などが出題されています。

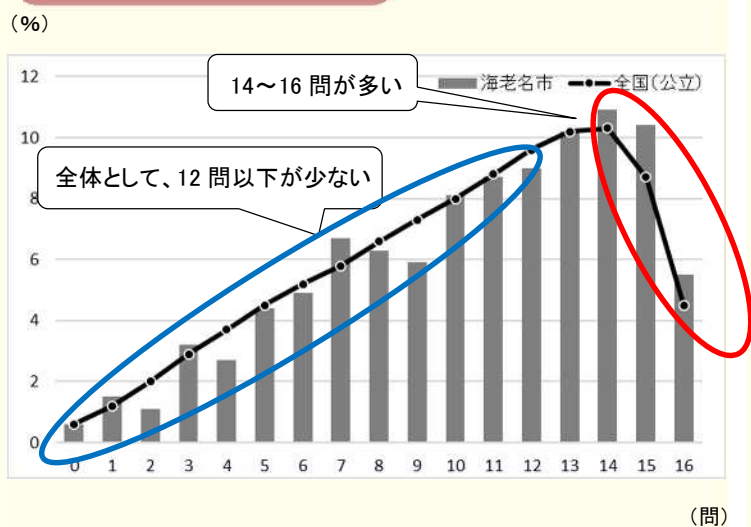
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	64.9%	64.0%	63.4%	1.5
平均正答数	10.4 問 /16 問	10.2 問/16 問	10.1 問 /16 問	0.3

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率

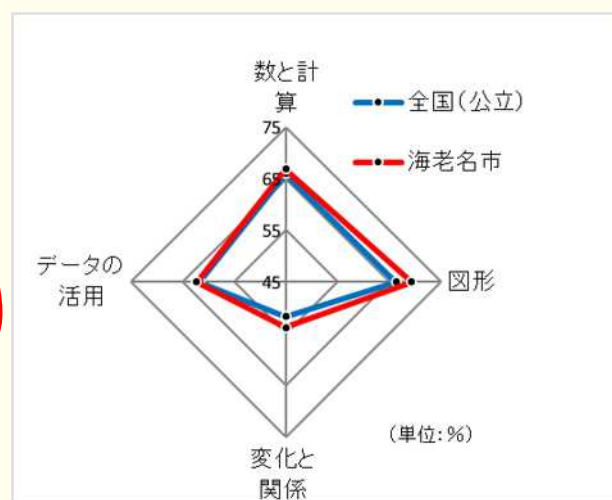
正答数分布グラフ

(横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



- * 正答率 50%以下(0～8 問)の児童の割合は、全国と比較して下回っています。
- * 正答率 80%以上(12～15 問)の児童の割合は、全国と比較して上回っています。

学習指導要領の領域等の平均正答率



- * すべての領域において、全国と比較して上回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題 数	平均正答率 (%)			平均無解答率 (%)		
			海老名市	全国 (公立)	全国との 比較	海老名市	全国 (公立)	全国との 比較
学習 指導 要領 の領 域等	数と計算	6問	66.8	66.0	0.8	1.7	2.1	-0.3
	図形	4問	69.4	66.3	3.1	3.1	3.3	-0.2
	変化と関係	3問	53.8	51.7	2.1	2.7	3.4	-0.7
	データの活用	4問	62.3	61.8	0.5	4.6	5.6	-1.0
問題 形式	選択式	5問	76.5	75.3	1.2	0.9	0.6	0.2
	短答式	7問	63.9	62.0	1.9	3.9	4.4	-0.5
	記述式	4問	52.2	51.0	1.2	3.4	5.1	-1.7

海老名市の結果についての分析

- 今年度も平均正答率、平均正答数、中央値を見ると、全国と比べて大きな差は見られません。
- 正答率が全国を上回った問題は、16 問中 14 問です。また、正答率が 80% 以上の問題は、16 問中 3 問（全国は 2 問）です。
- 問題形式から見ると、記述式の問題の正答率が低いです。
- 無解答率が全国より高かった問題は 16 問中 6 問です。

全国の子供たちの正答率と差が見られた問題の例

小学校算数のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

(2) あやのさんたちは、350 kg の米を 1 人に同じ重さずつ配ると、何人に配ることができるかについて考えています。

350 kg の米を 1 人に 7 kg ずつ配る場合と、1 人に 0.7 kg ずつ配る場合を比べると、どのようなことがいえますか。

下の 1 と 2 と、3 と 4 の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

350 kg の米を 1 人に 7 kg ずつ配ると、50 人に配ることができます。

1 人に 0.7 kg ずつ配るとき、配ることができる人数は、

50 人より 1 多い 2 少ない です。

$350 \div 7 = 50$ です。

$350 \div 0.7$ の商は、50 より 3 大きい 4 小さい です。

② (2) 除数が $1 \div 10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ

趣旨 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる

正答例 【番号】 1、3

【わけ】 350 kg の米を配る場面において、1 人 7 kg ずつ配るときよりも、1 人に 0.7 kg ずつ配るときの方が多くの人に配ることができるから

◇この問題の正答率

海老名市 66.6% 全国(公立) 69.1%
(全国との比較 -2.5)

考 察

- 図形の領域及び内容について正しく理解しています。図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目できるように、作図や体験的な学習の時間を確保して指導している成果が表れています。
- 除数が小数である場合の除法の意味や考え方について、正しく理解できていないと考えられます。問題内容を図に表すなど、具体的な場面と式を行き来できるよう指導を工夫する必要があります。

指導の改善にむけて

◆図形を構成する要素を見だし、活用できるように

- 図形を観察したり、構成したりする活動を通して、図形を構成する要素の共通点を見だし、図形の性質について実感を伴って理解できるようにします。また、必要な情報を判断し、問題を解決できるよう指導していきます。

◆日常の具体的な場面と関連付けて考察できるように

- 乗法の計算を工夫したり、除数と商の大きさの関係を考えたりする際には、日常の具体的な場面と式を関連付けて考察できるように指導していきます。
- 除数が整数、小数の時の除法について、商の大きさが変化していることを見分けられるような図に表し、理解を深められるようにします。

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、文章中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する問題、話合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいかについて自分の考えを書く問題、表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題などが出題されています。

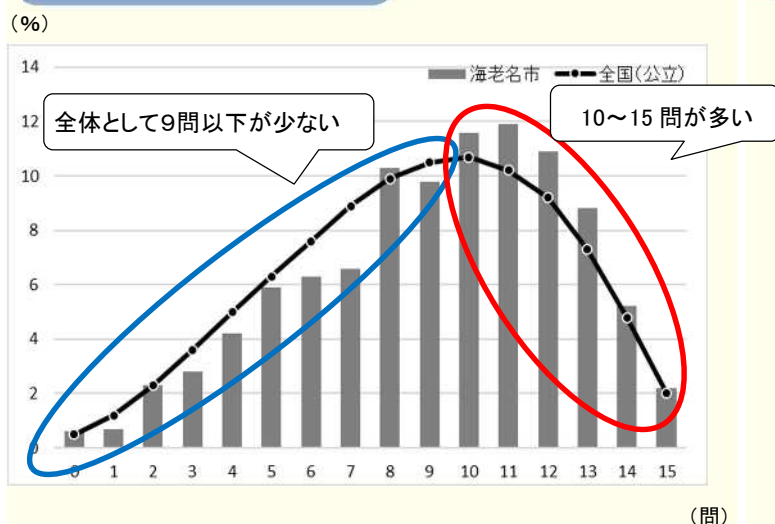
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	60.8%	59.0%	58.1%	2.7
平均正答数	9.1/15 問	8.8/15 問	8.7 問 /15 問	0.4

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率

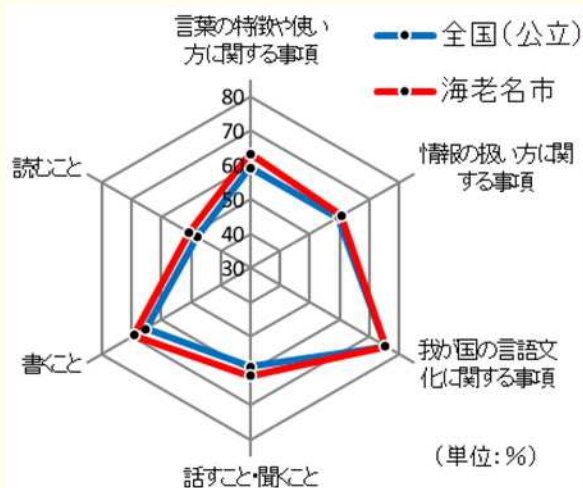
正答数分布グラフ

（横軸：正答数、縦軸：割合）



- * 正答率が80%以上(正答数12～15問)の生徒の割合は、全国と比較して上回っています。
- * 正答率が、50%以下(正答数0～8問)の生徒の割合は、全国と比較して下回っています。

学習指導要領の領域等の平均正答率



- * 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、全国と比較して上回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題 数	平均正答率（％）			平均無解答率（％）		
			海老名市	全国 （公立）	全国との 比較	海老名市	全国 （公立）	全国との 比較
学習 指導 要領 の領 域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	3 問	63.2	59.2	4.0	3.9	4.3	-0.5
	情報の扱い方に関する事項	2 問	60.6	59.6	1.0	0.5	0.6	-0.1
	我が国の言語文化に関する事項	1 問	75.5	75.6	-0.1	2.1	2.3	-0.2
	話すこと・聞くこと	3 問	61.4	58.8	2.6	4.1	4.6	-0.5
	書くこと	2 問	69.2	65.3	3.9	6.8	7.9	-1.1
問題 形式	読むこと	4 問	50.7	47.9	2.8	2.7	3.2	-0.5
	選択式	9 問	76.5	73.1	3.4	0.8	0.9	-0.1
	短答式	3 問	68.5	65.6	2.9	5.4	5.7	-0.3
	記述式	3 問	72.8	68.0	4.8	9.3	11.1	-1.8

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数を見ると、全国と比べて上回っています。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、15 問中 12 問です。また、平均正答率が 80%以上の問題は、15 問中1問(全国は1問)です。
- 平均正答率が全国を上回った 12 問のうち、3ポイント以上上回った問題は7問です。また、記述式の問題は3問ありましたが、そのうち2問が全国を3ポイント以上上回りました。
- 平均無解答率では、全国と同様に、記述式の無解答率が高い傾向がみられます。

全国の正答率と差が見られた問題の例

中学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。



2一 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

趣旨 文章と図とを結び付け、その関係について理解しているかどうかをみる

◇この問題の正答率
海老名市 35.4%
全国(公立) 36.3%
(全国との比較-0.9)

正答 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割
2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割

考 察

- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることについて概ね理解することができています。
- 文章と図表の関係について、図表がどのような効果を表しているのか理解することに課題があります。示されている図表が、文章のどの部分と関連しているのかを確認する等、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取り、図表の効果について理解を深める必要があります。

指導の改善にむけて

◆情報を適切に要約することができるように

- 要約する目的を明確にしたうえで、内容や分量、方法を考えながら目的に応じた適切な要約ができるように指導していきます。また、要約文を書いた後に、基となる文章の内容と齟齬がないか、丁寧に確認する活動を取り入れていきます。

◆図表が持つ役割を理解できるように

- 様々な図表(グラフ、写真、イラスト等)がどのように文章と関係付いていて、どのような効果があるのかを確認する活動を取り入れます。さらに雑誌やウェブサイトの文章等、身近なものを教材として取り上げ、実生活と関連付けながら学習することで、より理解を深められると考えます。
- 文章の中に図表を取り入れている筆者の意図について考え、グループ等で話し合う活動を取り入れます。このような活動は、国語科だけでなく、他教科の学習においても行っていきたいと考えます。

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す問題、二つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を基にして証明する問題、ストーブで18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるか求める方法を式やグラフを用いて説明する問題などが出題されています。

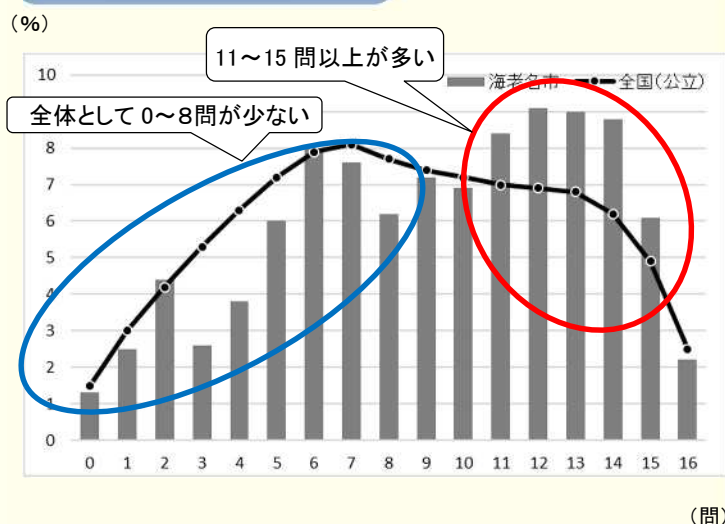
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	57.3%	54.0%	52.5%	4.8
平均正答数	9.2問 /16問	8.7問/16問	8.4問 /16問	0.8

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率

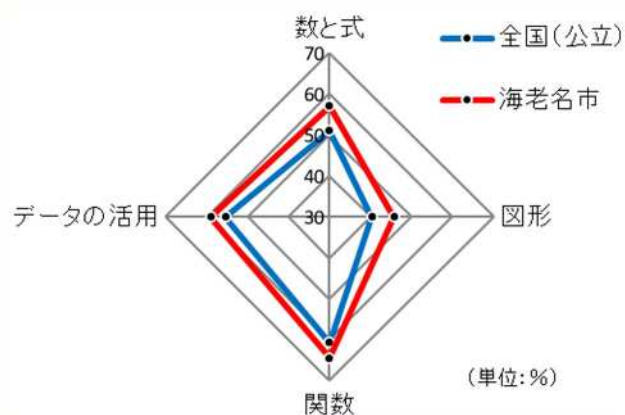
正答数分布グラフ

（横軸：正答数，縦軸：割合）



- * 正答率 50%以下(0～8問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく下回っています。
- * 正答率 80%以上(12～15問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っています。

学習指導要領の領域等の平均正答率



「数と式」、「図形」の領域において、全国と比較して上回っています。

「関数」「データの活用」の領域において、全国と比較してやや上回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題 数	平均正答率（％）			平均無解答率（％）		
			海老名市	全国 （公立）	全国との 比較	海老名市	全国 （公立）	全国との 比較
学習 指導 要領 の領 域等	数と式	5問	57.0	51.1	5.9	12.8	15.9	-3.2
	図形	3問	45.8	40.3	5.5	10.4	12.8	-2.4
	関数	4問	64.4	60.7	3.7	5.6	5.4	0.1
	データの活用	4問	59.1	55.5	3.6	9.8	10.1	-0.3
問題 形式	選択式	5問	62.5	58.5	4.0	1.4	1.4	-0.1
	短答式	6問	71.9	67.0	4.9	5.5	6.7	-1.3
	記述式	5問	34.5	29.3	5.2	23.4	26.5	-3.1

海老名市の結果についての分析

- すべての設問において、平均正答率が全国と比べて上回っています。
- 平均正答率が80%以上の問題は、16問中3問(全国は2問)です。
- 無解答率が全国と比べて下回ったの設問は、16問中9問です。
- 特に記述式の設問において全国と比べて平均正答率が高く、無解答率は低い傾向が見られます。

全国の子答率と差が見られた問題の例

中学校数学のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

連続する2つの偶数

- 1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とするとき、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

趣旨 数量及び数量の関係を捉え説明する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる。

- ・事象に即して解釈したことを数学的に表現すること
- ・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと

正答(例) $2n$ 、 $2n+2$ など、連続する二つの偶数を解答しているもの。

◇この問題の子答率

海老名市	44.1%
全国(公立)	34.8%
(全国との比較)	+9.3)

全国的に課題が見られた問題です

考 察

- 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式を問わず全体に正答率が高いです。計算などの基本的な技能を授業の中で丁寧に扱っていることが結果につながっています。
- 関数の領域において、式やグラフの活用に課題があります。
- 図形の領域において、筋道を立てて考え、証明することに課題があります。

指導の改善にむけて

◆関数への理解を深めるために

- 二つの数量について、表、式、グラフを使って適切に表現する力を伸ばすように指導します。
- 実生活の中で、関数の考え方を活用できるように、多様な問題を学習に取り入れます。

◆図形への理解を深めるために

- 仮定と結論の違いを理解する等、基本事項の定着をめざして指導します。
- 図形領域の学習時間が十分に確保できるように、年間指導計画の工夫・改善を図ります。



児童生徒質問紙調査結果

◆児童生徒質問紙 各教科の正答率とのクロス集計

- ① 生活習慣（朝食）について
- ② 学習習慣（家庭学習）について
- ③ ICT機器の授業活用について
- ④ 学習に対する姿勢について

◆児童生徒質問紙の結果から

- ◇生活習慣について
- ◇学習習慣について
- ◇学習に対する姿勢について
- ◇規範意識・自己有用感について
- ◇地域とのつながりについて
- ◇教科学習について



◆ご家庭で協力していただきたいこと



児童生徒質問紙 ① 学力との関わり

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

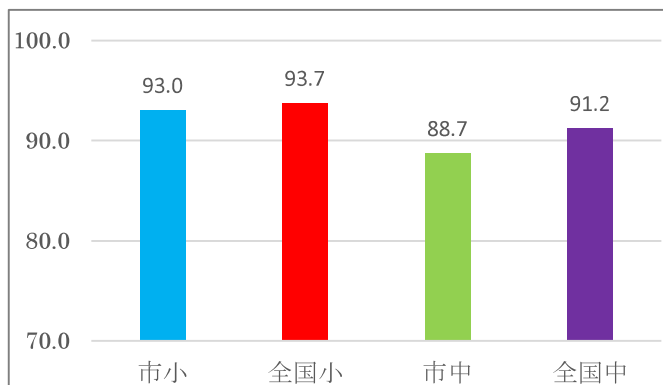
生活習慣（朝食）について

毎日の朝食から生活習慣について考える。

質問

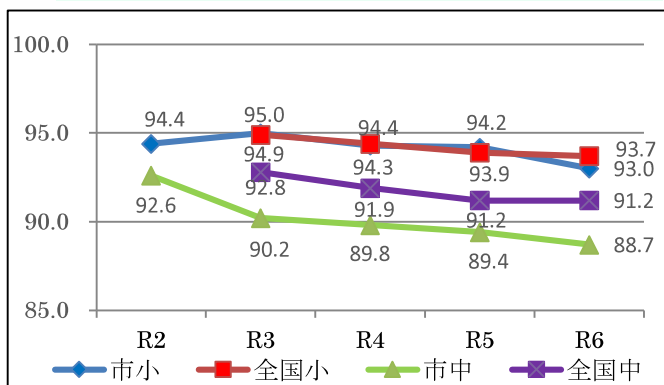
朝食を毎日食べていますか。※R2 は小中ともに全国の集計なし。（以下全項目同じ）

今年度の結果



小学校、中学校ともに、全国平均と同様に高い傾向にあります。その一方で朝食を食べていない生徒が中学はクラスに2～3人いる割合になっています。

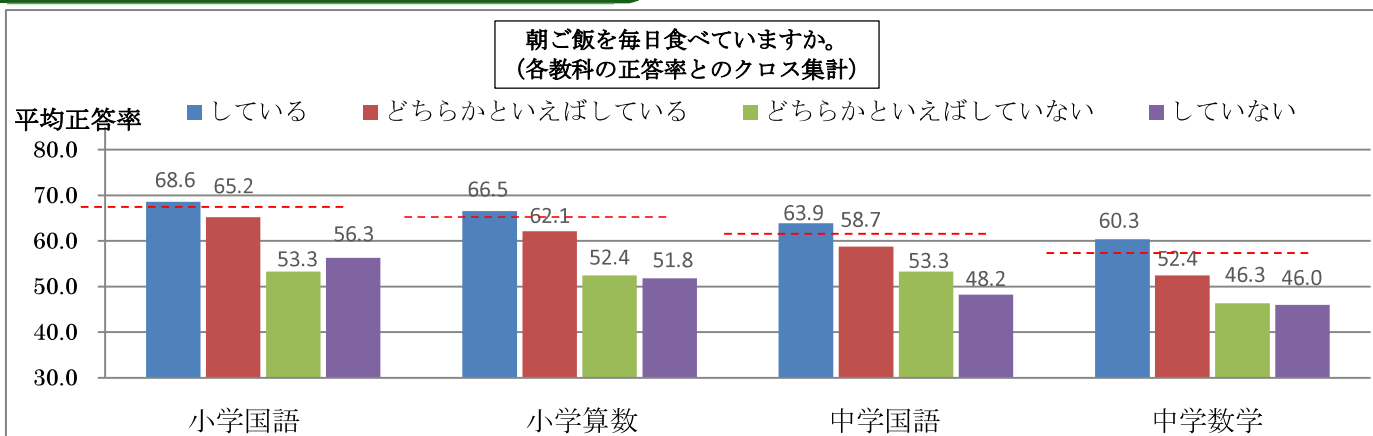
5年間の比較



全国と比較すると小学校はほぼ変わらず、中学校は2ポイントほど低い状況で推移しています。小中学校ともに、若干の減少傾向がみられます。

※グラフは、「している」「どちらかといえば、している」の回答率を合計した数値で示しています。

各教科の正答率とのクロス集計



この質問に対しては、朝ご飯を食べていると回答した児童生徒の各教科の正答率が高いという結果が出ています。

※ 海老名市平均正答率：小学国語 67.0、小学算数 65.0、中学国語 60.7、中学数学 57.5

これからの指導について

全国の平均値や過去5年間の経過を比較しても、大きな変化は見られませんが、「学級に2～3人は朝食を食べてきていない児童生徒がいる」という現状にも、変化がありません。睡眠時間を含めた生活リズムを整えることの大切さを保健体育等の授業で引き続き指導します。

「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする生活習慣の安定は、クロス集計の結果からもわかるように、学力の定着にも影響していると言えます。今後ともご家庭でのご協力をお願いします。

児童生徒質問紙 ② 学力との関わり

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

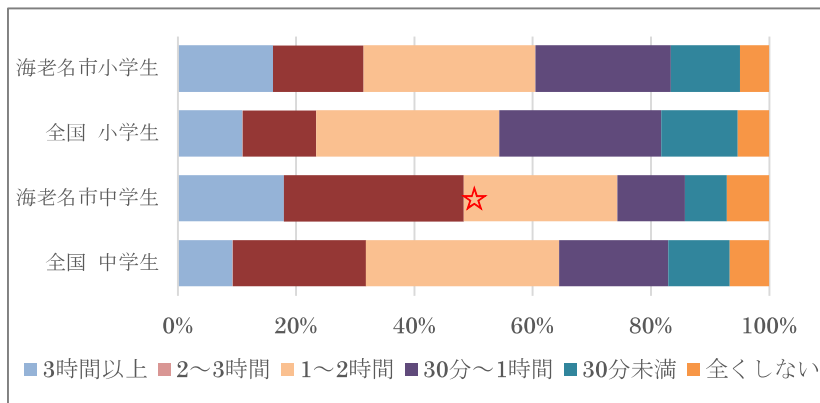
学習習慣（家庭学習）について

学校の授業時間以外の学習から、家庭での学習習慣について考える。

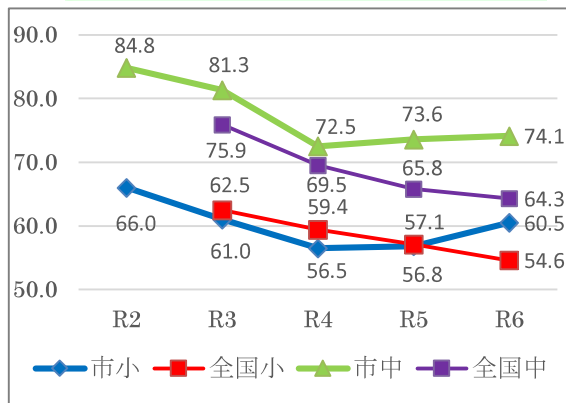
質問

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間やインターネットを活用した学習時間も含む）

今年度の結果



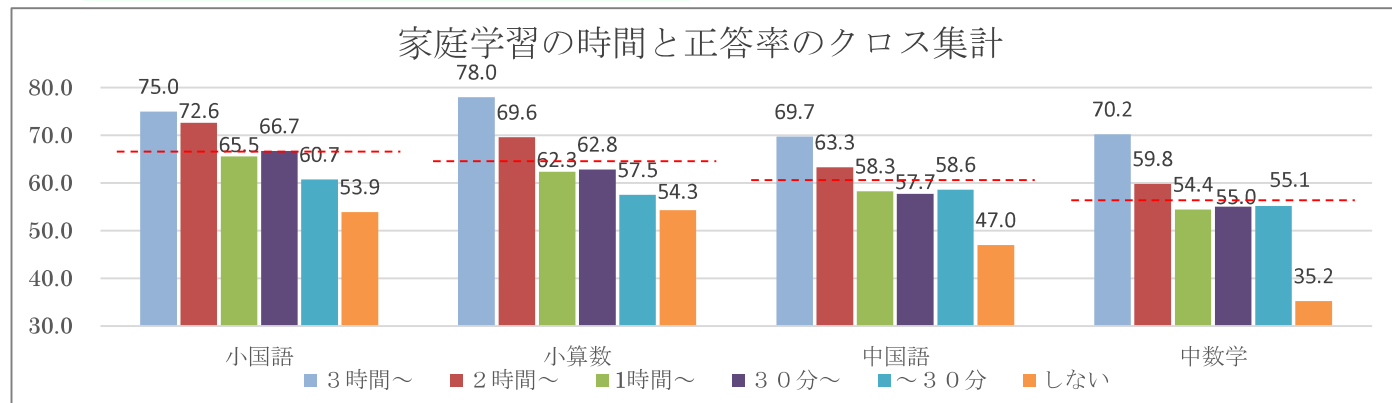
5年間の推移



小中学校ともに、家庭学習（塾などを含む）の時間が2時間以上の児童生徒の割合は、全国平均を上回っています。特に中学生においては、全国平均を大幅に上回っています（★）。

1時間以上学習をしている児童・生徒の割合は、全国的に減少傾向にある中で、本市の児童生徒には増加傾向が見られます。

各教科の正答率とのクロス集計



この質問に対しては、より家庭学習時間が多い児童生徒の各教科の正答率が高いという結果が出ています。

※ 海老名市平均正答率：小学国語 67.0、小学算数 65.0、中学国語 60.7、中学数学 57.5

これからの指導について

家庭学習時間の量と正答率の関係性は、どの教科にも表れています。学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。また、毎日計画的に学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。少しずつでも継続することが、大きな力につながります。海老名市では1人1台端末の持ち帰りを進めておりますので、ICTを活用した家庭学習について考えていきます。

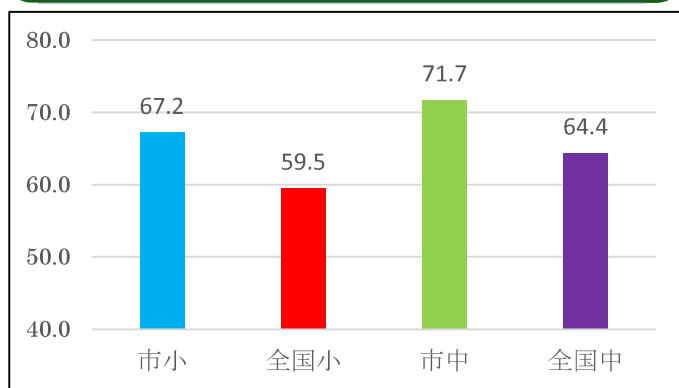
ICT 機器の授業活用について

授業での ICT 機器の活用から、個々の学びの多様性に
応じた学習について考える。

質問

前学年までの授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

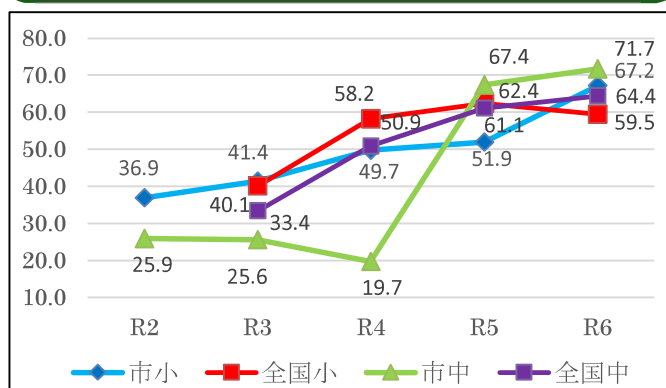
今年度の結果



小学校、中学校ともに全国の平均を上回っています。

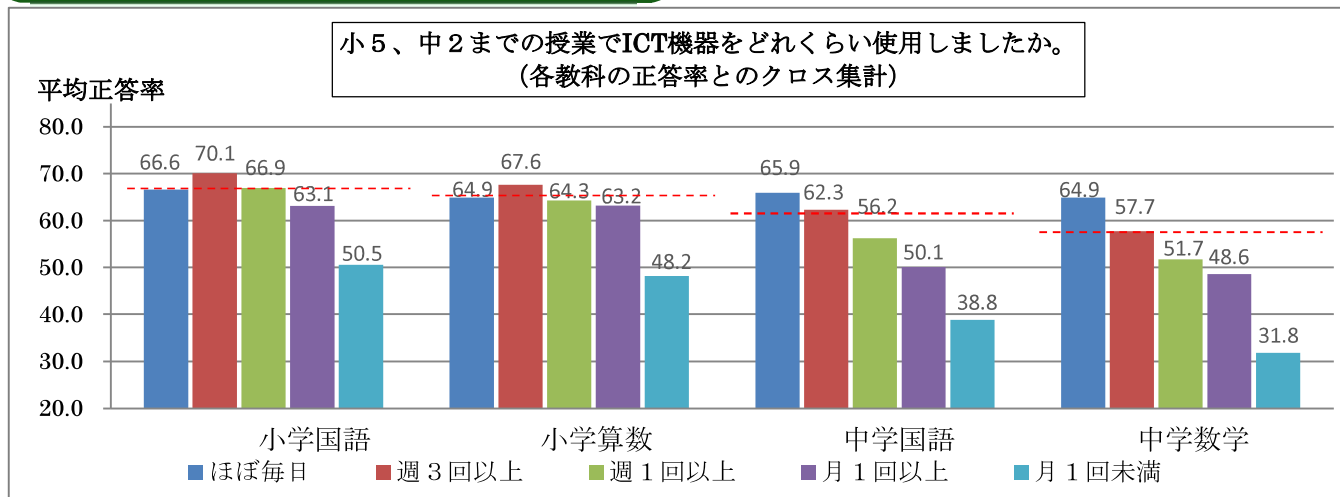
※グラフは、「ほぼ毎日」「週3回以上」使用した回答率を合計した数値で示しています。

5年間の比較



小学校、中学校において授業での ICT 機器の活用が、大幅に進んでいます。

各教科の正答率とのクロス集計



ICT 機器の授業での使用時間と正答率との関係性は、昨年度までは小中学校ともに全国との大きな差は認められませんでした。が、今年度の調査では、中学校では顕著に差が表れています。

※ --- 海老名市平均正答率：小学国語 67.0、小学算数 65.0、中学国語 60.7、中学数学 57.5

これからの指導について

1人1台端末(タブレット・ノートPC)が導入されて、授業での ICT 機器の活用が進んできました。ICT 機器の活用が各教科の正答率に結びついているため、学校においては、授業の中でのより効果的な活用の研究を進めるとともに、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒、外国につながる児童生徒に対する学習活動等の支援など、児童生徒ひとりひとりの学びの多様性に応じた、より個別最適な学習ツールとしての活用を進めていきます。

児童生徒質問紙 ④ 学力との関わり

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

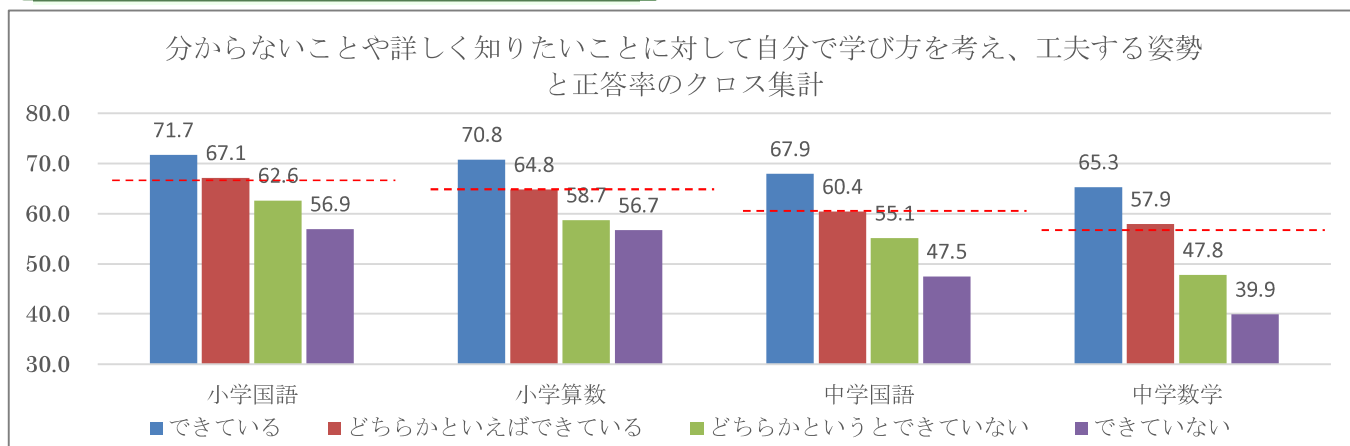
学習に対する姿勢について

児童生徒の主体的な学びの姿勢について考える。

質問

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

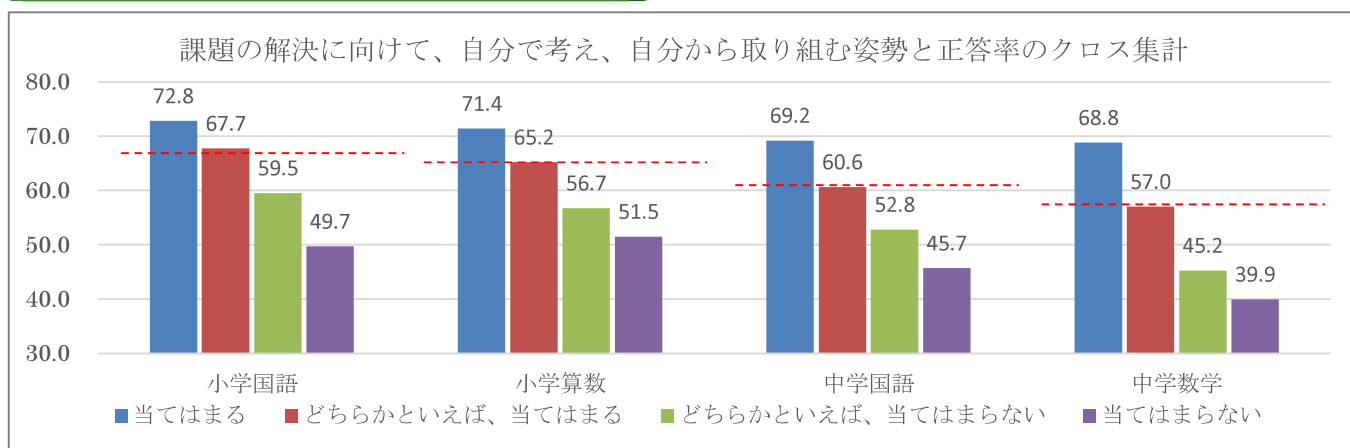
各教科の正答率とのクロス集計



質問

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

各教科の正答率とのクロス集計



これらの質問に対しては、主体的に学ぼうとする姿勢をもつ児童生徒の各教科の正答率が高いという結果が出ています。
※ 海老名市平均正答率：小学国語 67.0、小学算数 65.0、中学国語 60.7、中学数学 57.5

これからの指導について

主体的に学習に取り組む姿勢を育むことの大切さは、正答率の関係にも表れています。学校においては、児童生徒が主体的に学習に取り組める指導計画や指導方法の研究を進めていきます。ご家庭においても、児童生徒が興味関心を持って課題解決に取り組むような体験の機会や、主体的に学習に向き合えるような声掛けなどのご協力をお願いします。

児童生徒質問紙の結果から

主な結果と経年変化

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

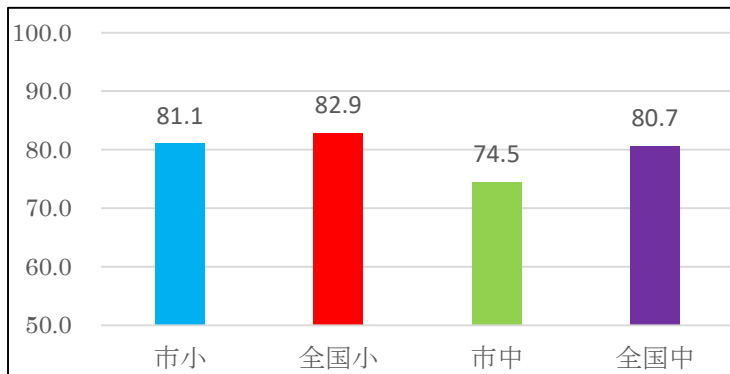
「生活習慣」について

毎日の起床時刻や就寝時刻から生活習慣について考える。
(令和2年は国の調査なし)

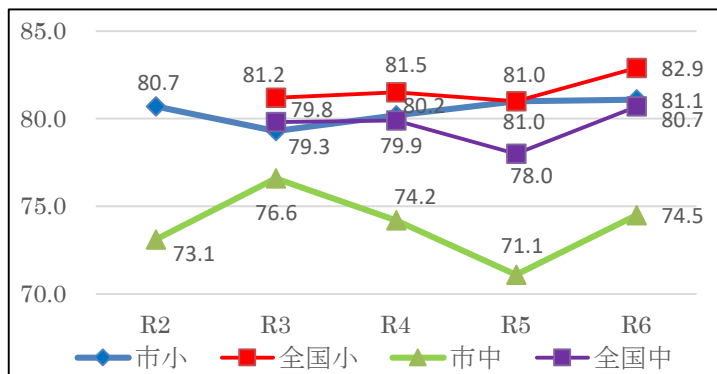
質問

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(している・どちらかといえばしているの割合)

今年度の結果



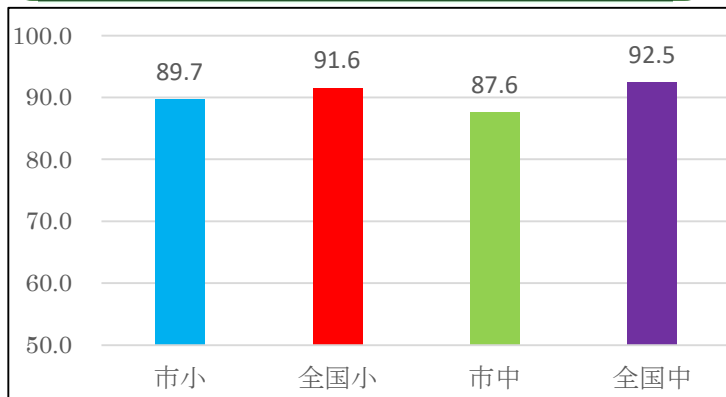
5年間の比較



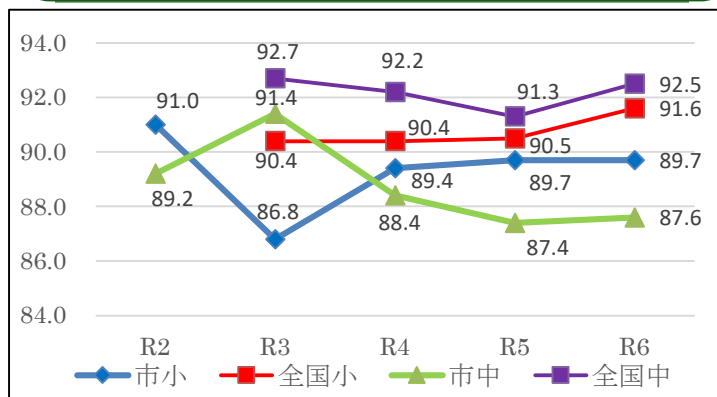
質問

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(している・どちらかといえばしているの割合)

今年度の結果



5年間の比較



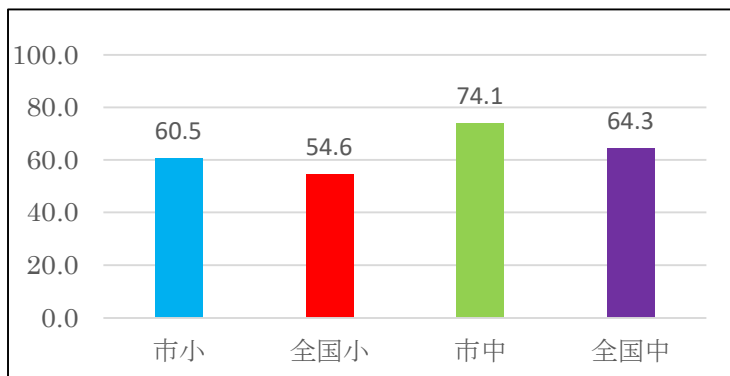
「学習習慣」について

学校の授業時間以外の学習様子から、学習習慣について考える。

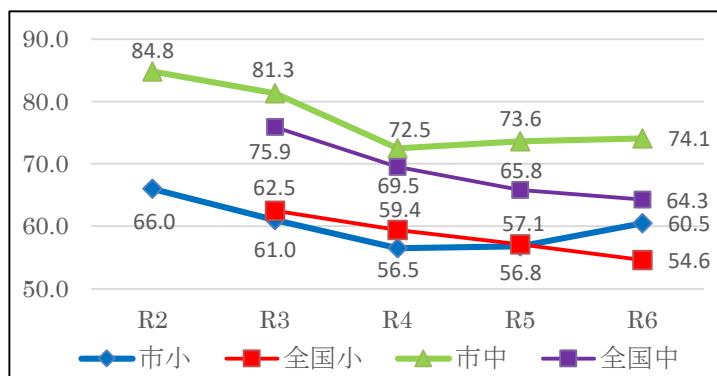
質問

家での学習時間。(塾・インターネット含む、一日当たり1時間以上学習しているの割合)

今年度の結果



5年間の比較



児童生徒質問紙の結果から

主な結果と経年変化

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

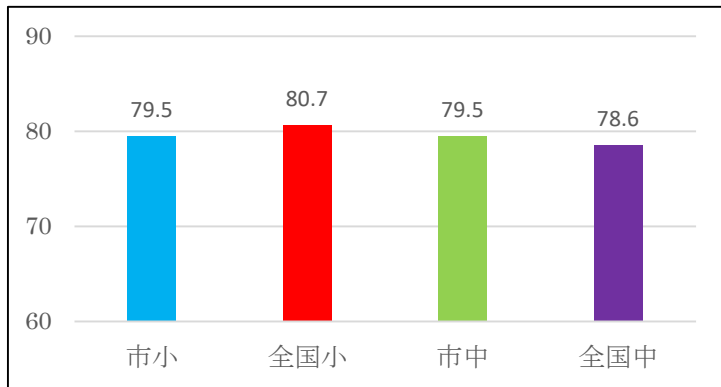
「学習に対する姿勢」について

児童生徒の主体的な学びについて考える。

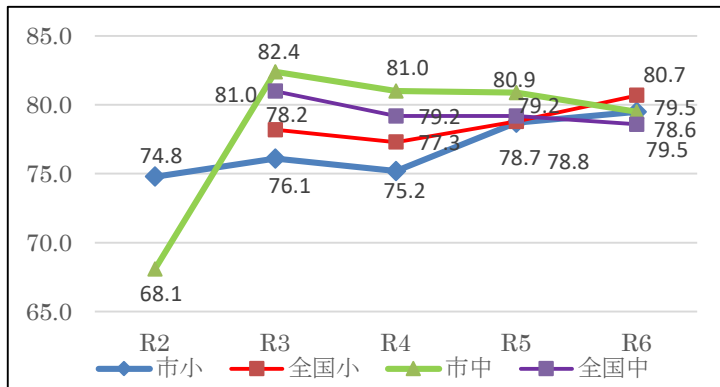
質問

課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んでいましたか。(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)

今年度の結果



5年間の比較



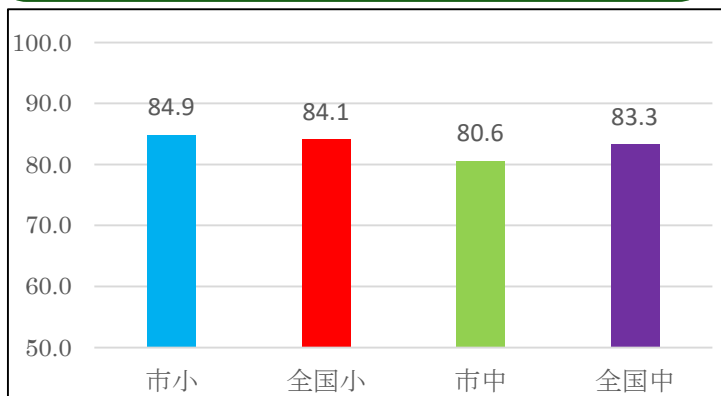
「規範意識・自己有用感」について

自分の良さやいじめに対する考え方等から、規範意識・自己有用感について考える。

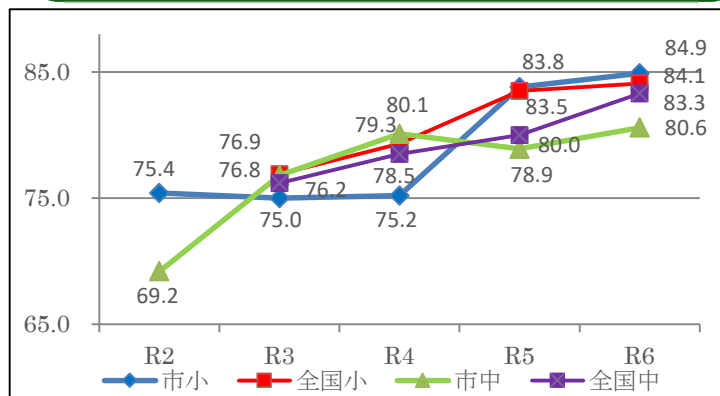
質問

自分には、よいところがあると思いますか。(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)

今年度の結果

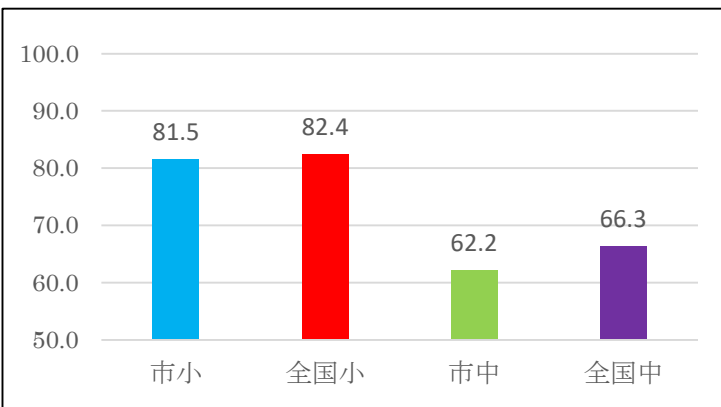


5年間の比較



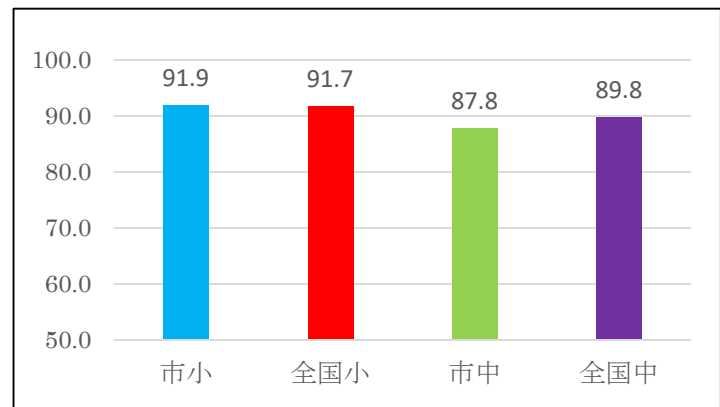
質問

将来の夢や希望を持っていますか。
(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)



質問

普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか。(よくある・ときどきあるの割合)



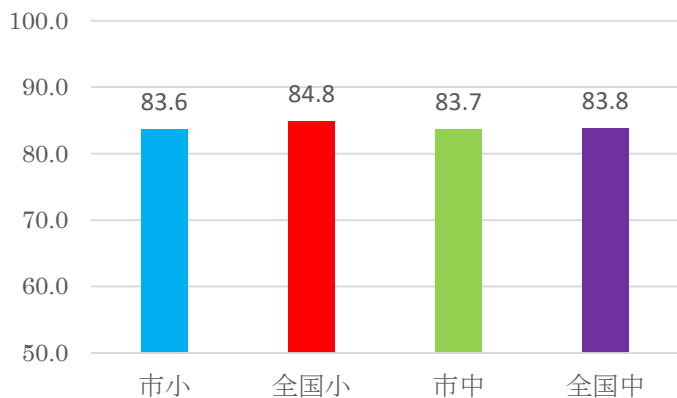
児童生徒質問紙の結果から

主な結果と経年変化

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

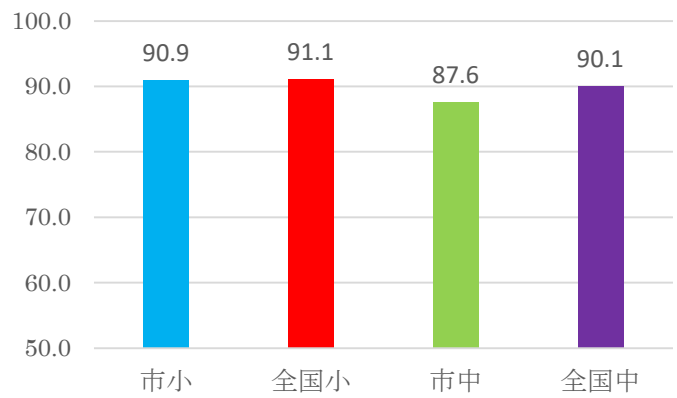
質問

学校は楽しいですか。
(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)



質問

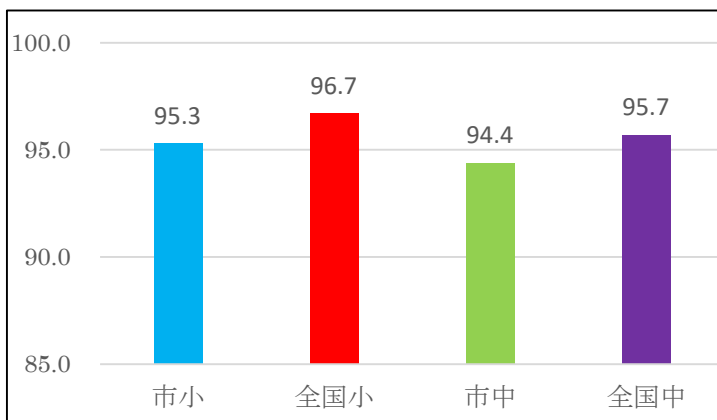
友だち関係に満足していますか。
(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)



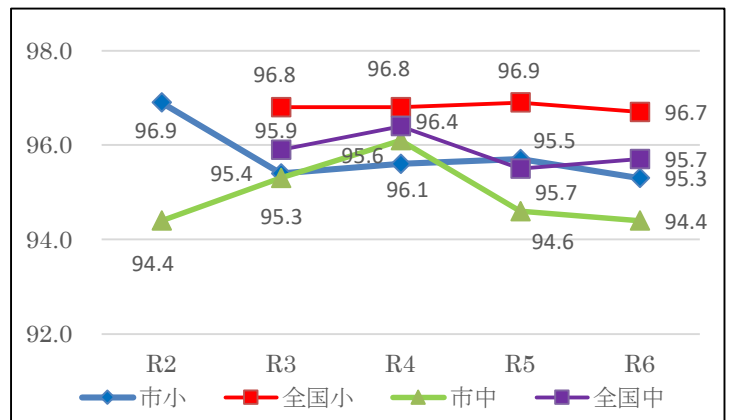
質問

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(当てはまるの割合)

今年度の結果



5年間の比較



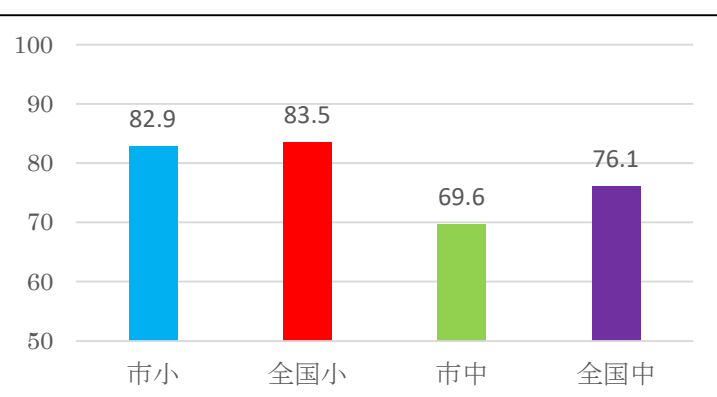
「地域とのつながり」について

地域や社会への関わりについて考える。

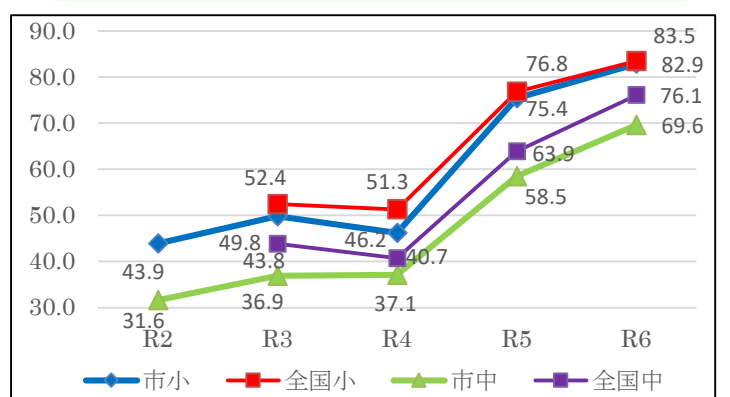
質問

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。※R5年度より質問変更 (当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)

今年度の結果



5年間の比較



児童生徒質問紙の結果から

主な結果と経年変化

令和6年度
全国学力・学習状況調査 単位%

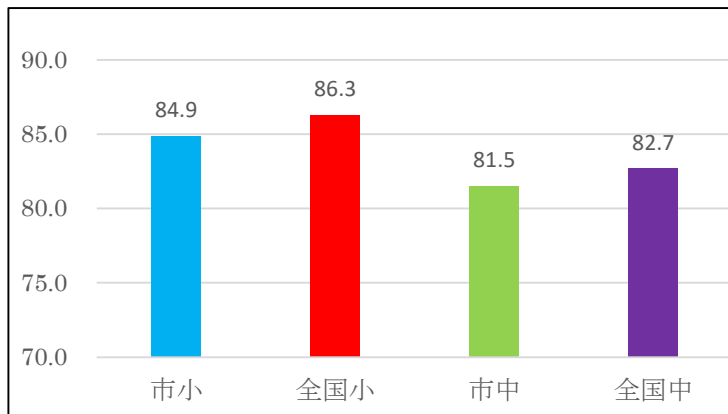
「教科学習」について

各教科の授業の理解について考える。

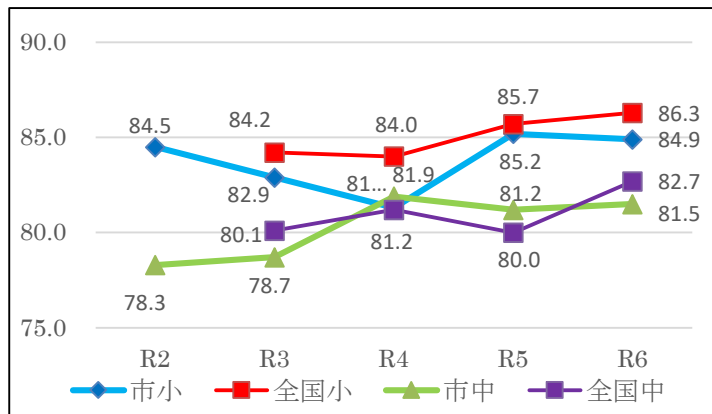
質問

国語の授業の内容はよくわかりますか。(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)

今年度の結果



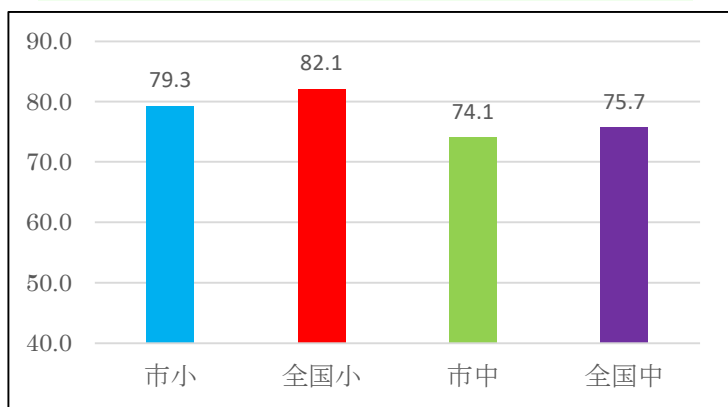
5年間の比較



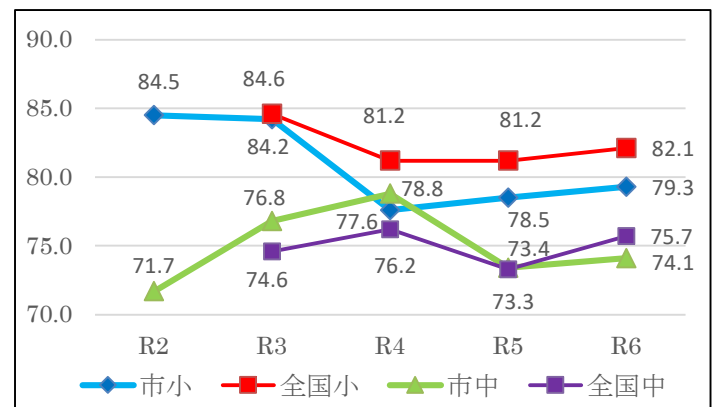
質問

算数・数学の授業の内容はよくわかりますか。(当てはまる・どちらかという当てはまるの割合)

今年度の結果



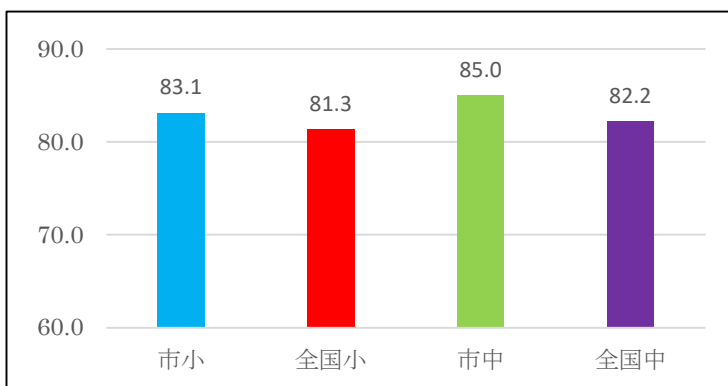
5年間の比較



質問

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

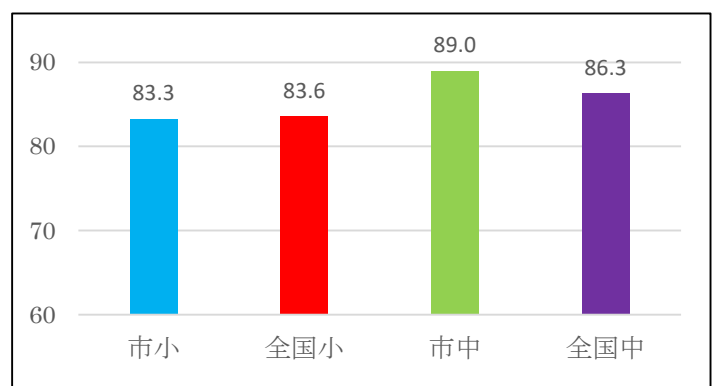
今年度の結果



質問

道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。

今年度の結果



規則正しい生活習慣を身につけましょう。

生活習慣の基本となる「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、よい生活リズムを心がけましょう。

自分の良さに気が付く声掛けを

こどもの個性を尊重し、出来ないことではなく、出来ることを評価し、物事に主体的に取り組む姿勢を育みましょう。

計画的な家庭学習に取り組みましょう。

取り組む時間や分量、内容など、自分で計画を立て、継続的な家庭学習に取り組みましょう。

地域の方々と顔が見える「つながい」をつくっていきましょう。

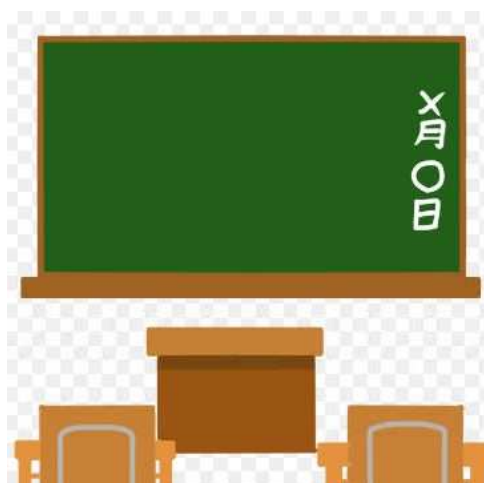
海老名市ではコミュニティ・スクールを導入し、「地域で育てるこどもたち」を目指しています。地域に関心を持ち、地域の行事等に家族で参加しましょう。

ご協力をお願いします！





学力向上のための「8つの教育施策」について



令和6年12月

海老名市教育委員会



1

授業改善に取り組んでいます

平成 30 年度より、重点施策として「授業改善」を掲げ
全教員で「よりよい授業づくり」に取り組んでいます。



学習指導要領で示されている、「主体的・対話的で深い学び」の
視点に立った授業改善を行っています。

令和 6 年度は、文部科学省教科調査官を小学校 1 校、中学校 2
校に招き、授業改善にむけた実践的な取組を実施しています。

また、教科指導充実のための書籍を配備しています。

さらに、平成 30 年度より研究会を立ち上げ、よりよい授業づ
くりのための研究を継続して行っています。

令和6年度予算
2,116 万 1 千円

2

ICT活用教育を推進しています

わかりやすく楽しい授業を展開するために、ICT 機器
を活用した教育を進めています。



全児童生徒に 1 人 1 台端末を整備し、教室のプロジェクタ等の
ICT 機器と併せて、活用しています。

今年度から、1 人 1 台端末を原則毎日持ち帰りとし、さらなる
活用を進めているところです。

今後も、より効果的な活用方法について研究していきます。

令和6年度予算
2 億 8,824 万円

3

ALT（外国人指導助手）を配置しています

小学校の外国語・外国語活動や中学校の英語科におけるコミュニケーション活動を充実させるため、ALT（外国人指導助手）を配置しています。



令和6年度は、13名のALTを市内小中学校19校に配置しています。

さらに、1つの小学校に13名のALTを同日に配置し、1日を通じて英語に親しむ『English day』にも取り組んでいます。

**令和6年度予算
7,312万5千円**

4

教員の研修・研究を推進しています

教員の指導力向上のために、指導法講座などの研修会を開催しています。令和5年度からは、教員がより主体的に取り組み、充実した研修を行えるよう、市主催研修の体系を改善しました。また、各学校での校内研究をサポートしています。



講師をお招きした研修会や実技講座を開催し、教職員の資質向上を目指しています。令和5年度からは、選べる研修の種類を大幅に増やし、教員がより主体的に学べるようにしています。

また、毎年、小学校2校、中学校1校を研究校に指定し、研究成果を次の年に「ひびきあう教育研究発表大会」で報告しています。令和6年度研究校は、有馬小学校、今泉小学校、今泉中学校です。

**令和6年度予算
1,093万7千円**

5

少人数学級、少人数指導のための教員を配置しています

ひとりひとりのこどもの学力に応じたきめ細かな指導を目的として、市費で非常勤教員を配置して、35人以下の学級や少人数での学習指導を行っています。



他市に先駆けて、平成17年度からスタートし、令和6年度も市費で小中学校に非常勤教員を配置しています。

令和6年度予算
2,035万4千円

6

補助指導員、学習支援ボランティアを配置しています

個別の学習支援が必要なこどものために、市費で教員資格を持つ指導員を配置しています。

また、学習支援ボランティアを募集し、授業での学習支援や「まなびっ子クラブ」を行っています。



【補助指導員】

小中学校全19校に各校1名以上の指導員を配置して、こどもの特性や学力に応じた、個別の学習支援を行っています。令和6年度は、小・中学校あわせて550名のこどもの支援を行っています。(10月末現在)

【学習支援ボランティア】

こどもや学校を支援しています。令和6年度の派遣回数は、966回です。(9月末現在)

令和6年度予算
3,790万9千円

7

「学校応援団」による学校支援を進めています

平成 27 年度より、小学校に「学校応援団」を設置し、地域の方々の力によりこどもと学校を支援する取組を進めています。



「学校応援団」では、学校の授業や行事の支援、学校環境の整備などを行うとともに、「えびなっ子スクール」や「あそびっ子クラブ」などの運営を行っています。学校と地域の実態に応じた多様な支援活動を推進しています。

令和6年度予算
4,541 万 9 千円

8

コミュニティ・スクール、小中一貫教育を推進しています

平成 29 年度から、こどもの育ちを9年間で支える「小中一貫教育」に取り組んでいます。平成 30 年度には全小中学校に学校運営協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」となりました。令和5年度からは、小中合同で中学校区の学校運営協議会を実施しています。



【小中一貫教育】

中学校区ごとに共通の目標を定め、その達成にむけて小中学生の交流や教職員の話し合いなどを進めています。

【コミュニティスクール】

各校の学校運営協議会で、「地域のこどもをどう育てるか」について、地域住民や保護者、学校教職員が共に話し合っています。令和6年度には、この協議会をより充実させるべく、協議会委員を対象にした研修会を開催しました。

令和6年度予算
190 万 1 千円

